

令和6年度 日野市立三沢中学校経営重点計画				自己評価シート		令和7年3月公表							
★学校教育目標				みずから学び真の学力をつけよう、 豊かな心をもちみんなと協力しよう、 からだをきたえ健全な心身をつくる						★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）				①郷土を愛し、郷土に生きる生徒としての自覚を育み、人も自分も大切にしながら、人の役に立つことの喜びを知る「心豊かな生徒の育成」を目指し、道徳授業の充実、地域をステージにした特別活動の充実を図り、道徳的実践力や協働して課題解決をする力の育成を推進する。また、安心安全な学校づくりのため、災害教育といじめ防止を組織的に推進する。 ②学ぶ姿勢づくりを基本に、ICTを活用した授業の実施やひのスタンダードに基づくUD化された授業の構築を進め、分かりやすい授業を展開し思考力、判断力、表現力を高め、話し合い活動を取り入れ、学力の向上を目指す。									
【目指す児童・生徒像】													
【目指す学校像】													
【目指す教師像】													
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策				
				評価点	取組指標		評価点			成果指標			
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	豊かな心の育成	○人権教育・道徳教育の一層の充実を図り、思いやりのある豊かな心を育成する。	①人権教育や道徳教育を通して、心の教育の充実を図り、人それぞれの個性の違いや多様性を認め合う心を育成する。 ②「いのちの授業」を実施し、いのちの大切さについて考える時間にする。 ③がん教育やSOSの出し方教育を実施する。	4	4	95%以上の教員が、思いやりのある心を育成することができた	3	4	生徒アンケートで、95%以上が思いやりの気持ちを高めることができた	・子どもたちからの声で学校で命について学習した事、聞いていました。その取り組みが子どもたちに伝わることを願っています。 ・道徳において理想的な答えを知っている生徒が多いと感じます。実際の自分はどう思うかどう行動できるかまで考え実生活に活かせることが大事だと感じます。 ・当三沢中学校の生徒さんは進んで「挨拶」が出来る…という校風が際立っていると思います。その校風から思いやり・感謝の心に通じているモノを感じます。生徒さん、教職員の皆さんは「挨拶」を通して、元気がある/元気がない/楽しそうだ/イキイキしている/悩みがありそう/体が辛そう、先生や生徒さん同士でも顔色を読み取ることが出来ます。挨拶する相手への「気付き」が出来ることから心の豊かさに繋がっていると思われま			
					3	90%以上の教員が、思いやりのある心を育成することができた		3	生徒アンケートで、90%以上が思いやりの気持ちを高めることができた				
			2		85%以上の教員が、思いやりのある心を育成することができた	2		生徒アンケートで、85%以上が思いやりの気持ちを高めることができた					
			1		思いやりのある心を育成することができた教員が85%未満	1		生徒アンケートで、思いやりの気持ちを高めることができた生徒が85%未満					
	充実した学校生活の推進	○生徒一人一人が、充実して学校生活が送れるような環境を構築する。	①毎月実施する生活状況調査を活用し、生徒の学校生活の様子を把握するとともに、いじめ防止等に取り組む。 ②夏休みの1年生家庭訪問や2・3年生三者面談を実施することで、生徒理解に努め、家庭環境も把握する。 ③学校行事、生徒会活動、部活動を通して、生徒が主体的に取り組める体制を構築する。	3	4	95%の学級が計画通り実施できた	3	4	生徒アンケートで、95%以上の生徒が充実した学校生活を送れた	・運動会、合唱祭では当日まで生徒たちがいろいろな場面で話し合い、協力しあって積み重ねたんだという姿が、最後には喜びとなって表す笑顔はとても良いです。 ・多様な生徒がいる為、細部まで行き渡ってないように感じます。先生方は真摯に取り組んでくださっているとは思いますが、働き方改革、もっと付随業務が減れば良いのには思います。また生徒一人一人の充実とともに先生方も一人一人充実を図っていかないと全てはリンクしていると感じます。 ・それぞれの生徒が自分の得意とする分野や場面で力を発揮出来るような環境作りを学校にお願いしたい。「手をつなごうこどもまつり」では地域活動部の生徒が三沢中育成会ブースにボランティアとして参加し、素晴らしい力を発揮してくれている。とても有り難く、うれしく思う。			
			3		90%以上の学級が計画通り実施できた	3		生徒アンケートで、90%以上の生徒が充実した学校生活を送れた					
			2		85%以上の学級が計画通り実施できた	2		生徒アンケートで、85%以上の生徒が充実した学校生活を送れた					
			1		計画通り実施したできた学級が85%未満	1		生徒アンケートで、充実した学校生活を送れたと答えた生徒が85%未満					
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	登校支援の推進と特別支援教育の充実	○登校支援事業として、チャレンジクラス、がんばルームの運営を推進する。 ○支援を必要とする生徒を把握し、個に応じた教育を進めるとともに、特別支援教育の視点に立った教育のユニバーサルデザイン化を推進する。	①主教職員が登校支援に主体的にかかわり、生徒への支援の充実を図る。 ②教育相談部会を毎週開催し、生徒の実態を共通理解し、共通実践を図る。特別支援コーディネーターとSC、発達臨床心理士、SSW等の連携により、家庭・地域との相談・支援体制を構築する。専門家（巡回相談等）の見立てを指導に生かすよう般化に努める。 ③特別支援教室、リソースルームとの連携を図る	1	4	95%以上の教員が、特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組んだ	1	4	生徒アンケートで、95%以上の生徒がきめ細かく個に応じた指導を受けた	・学校としての取り組み、場所確保等充実していると思います。これから、どのように子どもたちの必要な場所になれる様機関などと連携し意味ある支援教育を目指していただきたいと思ひます。 ・長年ががんばルームを運営してこれましたが、チャレンジクラスでは教員配置もされ充実した教育が期待されます。がんばルームとの連携もよく考えていただきたいと思います。			
					3	90%以上の教員が、特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組んだ		3	生徒アンケートで、90%以上の生徒がきめ細かく個に応じた指導を受けた				
			2		85%以上の教員が、特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組んだ	2		生徒アンケートで、85%以上の生徒がきめ細かく個に応じた指導を受けた					
			1		特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組んだ教員が85%未満	1		生徒アンケートで、きめ細かく個に応じた指導を受けることができなかった生徒が85%未満					
	一人一台の端末やICT機器を活用した授業	○全ての生徒に対して、分かる授業を実践し、学力の向上を推進する。 ○主体的・対話的で深い学びの構築	①学習規律を確立し、生徒一人一人の学力向上を図る。 ②クロムブック（ICT等）を活用した授業を実践する。 ③ユニバーサルデザインの視点に立った指導方法の工夫・改善を目指す。	3	4	95%以上の教員が、授業改善を実施し、成果を確認できた	2	4	生徒アンケートで、95%以上の生徒が「授業は分かりやすい」と答えた	・授業参観させていただき授業を工夫されてるなと感じた。生徒が話しやすい雰囲気クラスもあり意見交換など活発にできて得良しと思った。 ・自分の子どものChromebook状況を見直し、上手にICTを利用されてると思います。ただこの学校もそうですが先生方、学年、クラスに大きく偏りがないように。また発言力のある子以外のそうでない子を抱えあげていけるものこの分野に大きく期待したいです。 ・自分の子どものChromebookを見ると、Classroom、課題配信、ミライシードを効果的に活用されていると思います。キラキラ輝いている主体的な子だけでなく、発言の苦手な子を守るのがこの活用だと思ひます。			
			3		90%以上の教員が、授業改善を実施し、成果を確認できた	3		生徒アンケートで、90%以上の生徒が「授業は分かりやすい」と答えた					
			2		85%以上の教員が、授業改善を実施し、成果を確認できた	2		生徒アンケートで、85%以上の生徒が「授業は分かりやすい」と答えた					
			1		授業改善を実施し、成果を確認できた教員が85%未満	1		生徒アンケートで、「授業が分かりやすい」と答えた生徒が85%未満					
社会と未来に関き、みんなでつくる	家庭、地域との連携	○地域との交流を図り、地域に根差した教育を推進する。	①学校公開を毎学期実施し、地域の方々や保護者に学校の様子を公開していく。 ②学校・学年便り、WEBページ等を活用し、生徒の活躍など情報発信を図る。 ③青少年地区育成会等の地域行事にできるだけ多くの生徒を参加させる。 ④ちょこっとボランティア活動を実施し、地域との関わりの中で、生徒に自己肯定感を持たせる機会とする。	1	4	95%以上の教員が、ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組んだ	1	4	生徒アンケートで、95%以上が「人の役に立つことができた」と答えた	・児童数が多いため、いろいろな事情を抱えている子供が増加傾向なので地域との連携が今まで以上に必要性があると痛感しています。 ・生徒自身の自己評価が低い。一人でも多くの生徒に参加してもらえるような育成会のイベントを今後考えて行きたい。また、ちょこっとボランティアを通して「人の役に立つ喜び」を実感し、ボランティア活動に関心を持ち自ら一歩を踏み出せるよう、今後ちょこっとボランティアを続けて欲しい。			
					3	90%以上の教員が、ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組んだ		3	生徒アンケートで、90%以上が「人の役に立つことができた」と答えた				
			2		85%以上の教員が、ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組んだ	2		生徒アンケートで、85%以上が「人の役に立つことができた」と答えた					
			1		ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組むことができた教員が85%未満	1		生徒アンケートで、「人の役に立つことができた」と答えた生徒が85%未満					
	防災、防犯・安全に関する教育の推進	○火災・地震・不審者対応など、非常事態の対応について、生徒自らの判断で行動することが出来る能力を育成する。	①様々な場面を想定した避難訓練を実施し、臨機応変に行動できる力を身に付けさせる。 ②自然災害について学習し、地震以外の災害対策についても学習を深める。 ③集団で下校するような事態にも対応する心構え等を身に付けさせる。	3	4	95%以上の教員が、防災教育の成果を確認できた	3	4	生徒アンケートで、95%以上が「防災教育を学習できた」と答えた	・日々の訓練、意識の持ち方で一人一人が臨機応変に行動できることを望みます。中学生の冷静な行動が地域にも良い影響が起きると思います。 ・この分野は先生方が個々に授業内等で発信してくださっているように現役保護者は感じます。 ・色々な災害に対する避難訓練や学習は終わりがありません。継続して非常事態の対応を身につけていかなければならないと思います。			
			3		90%以上の教員が、防災教育の成果を確認できた	3		生徒アンケートで、90%以上が「防災教育を学習できた」と答えた					
			2		85%以上の教員が、防災教育の成果を確認できた	2		生徒アンケートで、85%以上が「防災教育を学習できた」と答えた					
			1		防災教育の成果を確認できた教員が85%未満	1		生徒アンケートで、「防災教育を学習できた」と答えた生徒が85%未満					

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。